

インフルエンザ予防接種について(説明書)

インフルエンザは罹患率が高く、高齢者や慢性疾患を持つ患者は肺炎を併発し重篤化になりやすい疾病です。インフルエンザの潜伏期間は1～3日間で、発熱や頭痛、筋肉痛などの全身症状が突然現れます。合併症がなければ約1週間で軽快します。

インフルエンザワクチンについて

インフルエンザを引き起こす病原ウイルスは少しずつ抗原性を変えることが多いため、毎年これに対応する株のワクチンが選定されています。ワクチンが十分な効果を維持する期間は、接種後約2週間後から約5か月とされています。このことから、インフルエンザが流行する時期を考え、よりワクチンの有効性を高めるために、一般的には10月から12月中旬までの間に行うことが適当とされています。

予防接種が受けられない方

1. 接種当日、明らかな発熱を呈している方
2. 重篤な急性疾患にかかっている方
3. 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方
4. インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
5. その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

予防接種の判断を行うに際して注意を要する方

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
2. 過去にけいれんの既往のある方
3. 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
4. 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する方
5. 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方

副反応

重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があらわれることがあります。その他、ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、脊髄炎、視神経炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作、急性汎発性発疹性膿疱症等が報告されています。

その他、まれに、発疹、じんましん、紅斑、搔痒等が現れることがあります。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、発赤、腫脹、疼痛等を認めることがあります。

インフルエンザワクチン接種後の注意事項

1. 予防接種後24時間は健康状態の変化の出現に注意してください。
特に30分以内は急な健康状態の変化が起こることがあります。接種局所の異常反応や体調の変化がある場合は、速やかに医師の診察を受けるとともに、最寄りの保健センターにもご連絡ください。
2. 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動を避けてください。
3. 予防接種当日の入浴は差し支えありません。

ワクチン接種による健康被害の救済制度

定期接種を受けたことにより、健康被害が発生した場合には、救済給付を行うための制度（予防接種健康被害救済制度）がありますので、最寄りの保健センターへご連絡ください。